

国際力動的的心理療法学会

第26回年次大会

大会テーマ

不可能を可能にする瞬間—心のミクロな変化を捉える—

Make the Impossible Possible: The Moment of Micro-Change Dynamics in Psychotherapy



大会 WEB サイト

<https://www.26annual.iadp.info>

日時 2022年7月16日(土) - 18日(月・祝)

会場 兵庫教育大学ハーバーランドキャンパス

(兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目5番7号 神戸情報文化ビル3階)

*状況に応じて、オンラインでの開催、プログラム変更の可能性がございます。変更の場合は、大会ホームページを通じてお知らせいたします。

大会会長 永山 智之

(兵庫教育大学准教授/PAS 心理教育研究所客員研究員)

主催 国際力動的的心理療法学会

協力助成 (公財)精神分析武田こころの健康財団

(公財)メンタルヘルス岡本記念財団

表紙のことは「BE KOBE」は、阪神・淡路大震災から20年をきっかけに生まれた「神戸の魅力は人である」というシックプライド・メッセージです。新しいことに挑もうとする人や気持ちを愛するメッセージとして広められています(神戸公式観光サイト「Feel KOBE」より)。世界が新たな危機に直面しているいま、ともに、この神戸の地で新たな臨床の風を起してまいりましょう。

神戸が震災後 25 年を迎えた 2020 年以降、世界はコロナ危機の渦中にあります。「がんばろう KOBE」の後、神戸は生き生きとしているでしょうか？この危機において、私たちは一筋の光を見出し、新たな展開へ向かえるでしょうか？

フロイトは人生で大切な事として、愛することと、働くことを挙げました。しかし、日本人はややもすると、ひたすら頑張っただけ、いつの間にか愛すること、生きること、その瞬間の喜びを遠くに置きがちです。愛することと働くことは、どちらかしか選べない『究極の 2 択』なのでしょうか？

否。マクロにはそうかもしれませんが、一部の心理療法・心理支援で活用されつつある、ミクロな量子力学の観点では違う捉え方ができます。蓋を開ける瞬間には、どちらもありうるのです。これらの「こと」に関わる生と死の 2 つの欲動（無意識の衝動）は、同時には正確に測定できませんが、両者は対立するものではなく、相補い、人生の全体像を説明するものとして描けます。

人は意志決定が出来ない自我自律性不全にある時、どっちつかずになります。しかし、改めて 2 択で問うことで、瞬間瞬間、自分の位置を定め直して愛することも選び、どちらも OK と置いて主体的に行き来していけるのです。

西洋では、近代以降にニュートン力学的因果論から揺らぎを捉える量子力学への展開があり、人間と自然が対置され、個人の自我のあり方が問われる中で、様々な心理療法の営みが浸透してきました。他方、東洋では近代以前に量子論に通じる思想が展開しました。特に人間と自然を一体と見ていた日本人は箱庭遊びを楽しむ文化を持ち、生死に関わることを「縁」として、共同体を基盤に自己を広げて揺らぎの中で乗り越えてきたのかもしれませんが。

しかし、近代に高まり、現代に入って激しさを増していったグローバル化の波が、洋の東西の境界を揺るがし、昨今のインターネットの普及と相まって、時間感覚の変更をも迫っています。世界が急速に変化し続ける中、今や誰もが、自分の位置を、心の時間・空間を容易に失いかねないのです。

こうした中、日本ではかつての共同体が失われて自己が拡散しがちとなり、しばしば直線的な因果論に囚われ、自己を狭めてもいます。そして、空気を読んで意志決定を保留してひきこもったり、『女は家庭で男は会社』『生きるために、家族や会社のためにひたすら頑張るべき』といったような、旧来の一度定めた「あるべき」世界観から脱却しきれずにいます。

それは結果として一人ひとりを孤立させ、家族や組織の危機の瞬間に働けず、災害やいじめ、あるいは家族や民族のトラウマを見逃す流れを作ります。あるいは、発達のための時間・空間を持たず、発達障害か否かのマクロな 2 分法に囚われ、個々人の発達するミクロなポイントを捉えられない事態を招きます。こうして、可能なことも不可能の波にさらわれていくのです。

では改めて、そこに自我も置き、ミクロな量子力学を置いてみるとどうでしょうか？母性社会と言われた日本にも父がいて、エディプス（父と母との三者関係）があると置いてみるとどうでしょうか？

不可能を可能にする。直線的な世界を抜ける道を拓くのが「この瞬間」の揺らぎと選択であり、心のミクロな変化を捉える専門家のなせる業です。専門家としての自分を磨き、より豊かな支援につなげるために、自我と自己の相互作用を置き、男女の愛情交換・協働を基盤に東洋・西洋の 2 分法も超えていきましょう。

さあ、まずは集みましょう。心理・教育・医療・看護・福祉・・・様々な形で心の支援に関わる専門家、これらを志す学生のグループの力で、不可能の波を越えるのです。この学会での「ご縁」から始まる、ミクロな変化のモザイク的饗宴を。時空を超えた飛躍を。死を置き、それでもなお、生き生きとした神戸を。日本を。世界を。

関西という地は、日本人の勤勉さに加え、瞬間「アホ」になり、生き生きとできる文化を有しています。関西初上陸の IADP。この地ならではの展開を、今、ここからはじめましょう。港の街で「祭り」の準備をしてお待ちしています。

第 26 回年次大会 大会会長
永山 智之



◆ 大会会長プロフィール ◆

兵庫教育大学准教授。PAS 心理教育研究所客員研究員。

心理療法家（臨床心理士・公認心理師）。博士（教育学）。

【専門】力動的心理学。思春期・青年期の人格発達。箱庭や描画、グループの現代的活用法。現代型の対人恐怖や神経発達症（発達障害）がある人、不登校・ひきこもり状態にある青年へのコンバインド・セラピー（個人とグループの併用）に注力してきた。現在、精神分析的システムズ（PAS）理論に基づき、思春期・青年期の主体性発達プロセスの量子論的分析を行い、心のミクロな変化を捉える心理支援技法を開発している。

【略歴】兵庫県出身。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程を出た後、滋賀大学保健管理センター／障がい学生支援室特任講師などを経て現職。兵庫県スクールカウンセラーやカウンセリングサロン Ark 神戸セラピストとして心理支援を行っている。

【主著】Quantum Analysis of Either-or Questioning Leading to Improve Underdeveloped Ego Autonomy in Early Adolescence: Using the Psychoanalytic Systems Theory.ふれ合いを恐れる青年に個人面接とグループ活動を併用する意義について—現実場面と深層の通路の確立—

大会基調講演

困難患者との協働

“The Confused and Confusing Patient: Projective identification in the treatment of difficult patients”

ある私の患者は、30歳の礼儀正しく感じのいい女性で、ソーシャルワーカーでした。

初回相談の後、部屋を出ようと立ち上がりました。

そして彼女は微笑みながら振り返ると、なぜ間違った学位をオフィスの外に掲示しているのですか、と尋ねました。一瞬私はパニックになり、何かミスをして、間違った学位を書き換えてもらうか、自分のことを間違えて伝えたかどうか、と自分に問いました。

私はすぐに立ち直って、我に返りました。外に掲示した内容はわかっていますし、それは正しいのです。

それを患者に伝えると、彼女は「ああ、そうなんですね。私が間違えたのでしょうか！」と言ってオフィスを出ていきました。（この時は、将来何が待ち構えているか、彼女が非常に困難な患者になるだろうとは思いませんでした！）

この時、強力な投影が起きていました。彼女は、私が自分自身の統合性を疑うようにしむけたのです。

私は、競争、不信、力不足などいくつかの問題について考え始めました。

メラニー・クライン(1946年)が初めて説明した投影性同一視の力は、困難患者と協働する際に極めて重要です。

これらの患者は、絶望、無力感、怒りなどの不愉快な感情をセラピストに投影することがよくあります。

セラピストにとってはこの投影を抱え込み、それを利用して患者を理解することが重要な仕事になります。

簡単なことではありませんが、

この講演では、投影性同一視の起源、意味、利用法を探求し、それを活用してどのように困難患者と協働するかについてお話しします。

講師



セス・アロンソン Psy.D.

(ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所トレーニング・ディレクター：アメリカ)

同研究所児童・青年期心理療法訓練プログラムにおいて訓練・スーパーヴィジョンに取り組む。アメリカ心理学会 39 分科会セクション 2(児童青年期)の無任所委員。ロングアイランド大学非常勤教授。イエシーパー・ホベベイ・トーラー(Yeshivat Chovevei Torah)においてラビ学生へのプロセスグループのリーダーを務める。アメリカ集団精神療法学会フェロー。米国 9.11 テロ事件後の PTSD 対策リーダー。

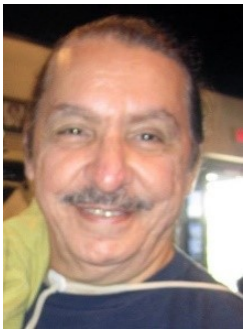
ゲスト・ファカルティ



セス・アロンソン Psy.D.

(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所トレーニング・ディレクター：アメリカ)

同研究所児童・青年期心理療法訓練プログラムにおいて訓練・スーパーヴィジョンに取り組む。アメリカ心理学会 39 分科会セクション 2(児童青年期)の無任所委員。ロングアイランド大学非常勤教授。イエシーバー・ホベベイ・トーラー(Yeshivat Chovevei Torah)においてラビ学生へのプロセスグループのリーダーを務める。アメリカ集団精神療法学会フェロー。米国 9.11 テロ事件後の PTSD 対策リーダー。



ラルフ・モラ Ph.D.(個人開業／メリーランド大学)

アデルファイ大学において臨床心理学の博士号を取得。アメリカ陸軍戦略大学およびテキサス A&M 大学において卒業研究を完成させた。長年、兵士の PTSD 治療、戦地に向かう軍人・兵士の子どもたちやその家族への心理的対応、子どもの PTSD 治療に精力的に取り組んでいる。2014 年にアメリカ国防総省での仕事を引退し、現在はメリーランド大学の非常勤教授を務め、また山口県岩国市にて個人開業を行う。



牛島 定信 M.D(市ヶ谷ひもろぎクリニック)

九州大学医学部卒業。ロンドン大学精神医学研究所留学。福岡大学医学部教授、東京慈恵会医科大学教授、東京女子大学教授、日本精神分析学会会長、日本森田療法学会理事長、日本サイコセラピー学会理事長、日本児童青年精神医学会理事長を歴任。人格障害、青年期の精神病理の解明および力動的療法の実践、研究をリードしてきた、日本を代表する精神分析医であり、精神分析的な精神医学に最も貢献してこられたお一人である。

大会スケジュール

* 状況に応じて、オンラインでの開催、プログラム変更の可能性がございます。変更の場合は、大会ホームページを通じてお知らせいたします。

大会 1 日目:2022 年 7 月 16 日(土)

| | |
|-------------|---|
| 13:00-13:15 | 開会式 |
| 13:15-14:00 | ◆大グループセッション セラピスト:小谷 英文(PAS 心理教育研究所理事長/国際基督教大学名誉教授) |
| 14:15-15:15 | ◆大会会長講演 「日本の大人は『青年』を愛せるのか? -2 択の問いで量子論的世界を楽しむ-」 Can We Adults Love “the Adolescent”? : Either-or Questioning from Japan to Enjoy Quantum World 講演:永山 智之(兵庫教育大学准教授/PAS 心理教育研究所客員研究員) 司会:中村 有希(PAS 心理教育研究所クリニカルディレクター) |
| 15:30-17:30 | ◆エドワード・ピニー記念特別ワークショップ 事例研究ワークショップ「不可能を可能にする瞬間」 オーガナイザー・トレーナー:小谷 英文(PAS 心理教育研究所理事長/国際基督教大学名誉教授) |

大会 2 日目:2022 年 7 月 17 日(日)

| | |
|-------------|---|
| 9:15-10:30 | ◆大会基調講演 「困難患者との協働」 “The Confused and Confusing Patient:Projective identification in the treatment of difficult patients” 講師:セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所トレーニング・ディレクター) 司会:花井 俊紀(PAS 心理教育研究所/吉祥寺心理教育研究所) |
| 10:45-12:15 | 研究発表 * 詳細は、7-11 ページをご覧ください。 事例報告・事例研究・リサーチ・研究サポート |
| 12:15-13:45 | 昼食・交流会(アゴラ)/ポスター発表 コンダクター:花井 俊紀(PAS 心理教育研究所/吉祥寺心理教育研究所) |
| 13:45-17:45 | ◆訓練ワークショップ * 詳細は、6 ページをご覧ください。 能 幸夫・吉田 愛 / ラルフ・モラ / 小谷 英文 |

大会 3 日目:2022 年 7 月 18 日(月・祝)

| | |
|-------------|--|
| 9:15-10:45 | ◆事例スーパーヴィジョン * 詳細は、12 ページをご覧ください。 〈講師〉 牛島 定信(市ヶ谷ひもろぎクリニック) ラルフ・モラ(個人開業/メリーランド大学) セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所トレーニング・ディレクター) 能 幸夫(PAS 心理教育研究所所長/湘南病院相談室室長) 橋本 和典(国際医療福祉大学大学院准教授/PAS 心理教育研究所理事) |
| 10:45-11:45 | 昼食/理事会 |
| 12:00-13:00 | 総会 |
| 13:15-15:15 | ◆全体ケースセミナー 〈コンダクター〉小谷 英文(PAS 心理教育研究所理事長/国際基督教大学名誉教授) 発表者:永山 智之(兵庫教育大学准教授/PAS 心理教育研究所客員研究員) |
| 15:15-15:45 | 閉会式 |

訓練ワークショップ

生きた対話の実現に向けて — 応答構成によるカウンセリング・心理療法の基礎訓練 — 定員 12 名

トレーナー 能 幸夫(PAS 心理教育研究所所長／湘南病院相談室室長)・吉田 愛(PAS 心理教育研究所)

カウンセリング・心理療法は、面接場面での生きた対話を通じて、クライアントが自分自身のありたい自己を追求する営みを助けていきます。この生きた対話の実現にむけて、カウンセラーやセラピストは、対話の一方の当事者として、自分自身の面接場面でのありようを検討していきます。それがカウンセリング・心理療法の基礎的な訓練です。

応答構成とは、事例の面接場面の一抜粋(インシデント)に対して、そこでのクライアントの発言を自分がどう捉え、どのように応えていけるかを検討していく訓練法です。

実際の作業は、クライアントの具体的な発言に対して、ワークシートを使いながら、クライアントの「発言内容」、「気持ちや感情」と、それらに対して生じてくる「カウンセラーやセラピストの感情」を識別し、その上で自分らしい応答を作ってみることで。

生きた対話の実現に向けて、応答構成という豊かな訓練法を用いて、ともに楽しく、学んでいきましょう。

【対象】初心から、改めて自分のカウンセリング・心理療法をもう一度点検して、見直したいと思っている臨床家も含めて、自分のカウンセリング・心理療法を磨いていこうとする臨床心理士、公認心理師、看護師、医師など。

初心者のための訓練ワークショップ 定員なし

トレーナー ラルフ・モラ (個人開業／メリーランド大学)

このワークショップは、大学院生やセラピストとして働きはじめたばかりの臨床家やカウンセラーを対象としています。この4時間の訓練ではまず、セラピスト/カウンセラーであるための基本要件を中心に、個人的側面や教育的側面を含めてお話しします。変わるということに関連した問題や、治療の中で変わるということをどのように理解し、伝え、利用するかにも焦点を当てます。また、環境づくりや、コミュニケーション・スタイルやボディ・ランゲージなどに関する重要な点も取り上げます。最後に、参加者には患者と最初のコミュニケーションを確立することに的を絞ったロールプレイをしてもらいます。このワークショップの目標は、有能なセラピスト/カウンセラーに必要な基本要件を理解することと、患者さんと効果的に話す能力、例えばどうしたら患者さんにうまく治療プロセスに入ってもらえるか、どうしたら初期の治療計画を立てられるか、を理解することです。すべての参加者は、精神力動やコミュニケーション原理について基本的な理解をもっていなければならない。

精神分析的システムズ心理療法ワークショップ —量子論的面接法— 定員 20 名

トレーナー 小谷 英文(PAS 心理教育研究所理事長／国際基督教大学名誉教授)

量子論的には時間はない。時間は人間の神経症不安の産物である。変化に抗うのが神経症であり変化しないことを頑として当然のこととしているのが人格障害である。人も人を生かしている環境の全てのものが、物理学的には常に変化している。自己受容とは、量子論的存在としての自己の受容を意味する。別の言い方をすれば、それは外から規定された時間を超え、自分自身の時間を刻むことを意味する。宮本武蔵、ブルース・リーそしてオットー・ランク、その同僚であり、C.R.ロジャースに強い影響を与えた美しき女性ジェシー・タフトが早くから実践し、主張したことである。仏教思想の源にある梵我一如の境地でもある。量子論的視野を持つてするなら、人は誰もがこの境地を実は経験していることを知る。マクロ世界の神経症原理に埋没している生活においては、人はこのことを積極的に見失うことをよしとしている。これを打ち破るのが、量子論的面接法であり、別名介入分析面接法という。

【対象】臨床経験のあるセラピスト

演題募集

IADP 第 26 回年次大会では、以下のプログラムに関して演題を募集します。

1) 研究発表 2022 年 7 月 17 日(日) 10:45-12:15

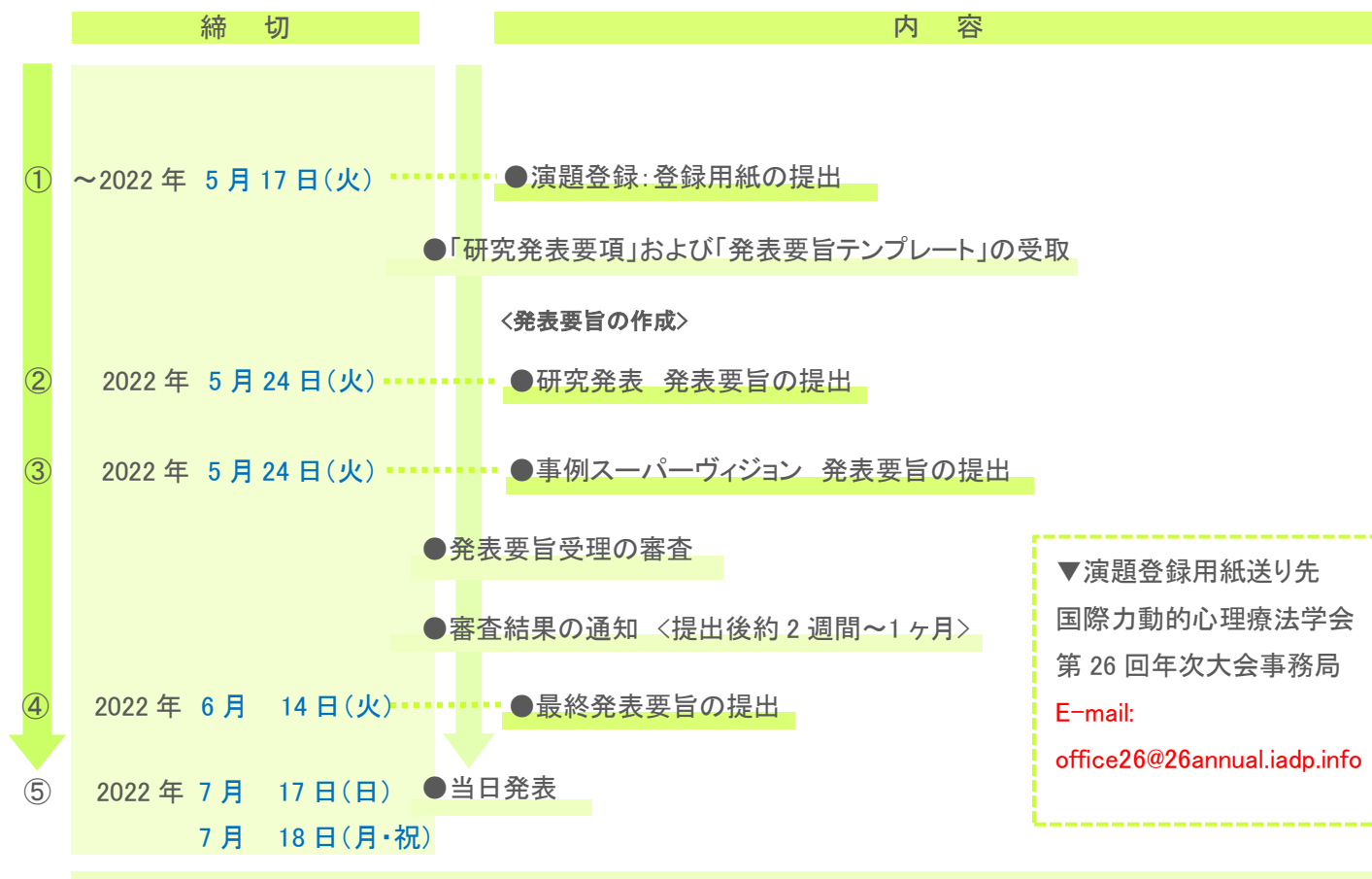
2) 研究サポート 2022 年 7 月 17 日(日) 10:45-12:15

3) 事例スーパーヴィジョン 2022 年 7 月 18 日(月・祝) 9:15-10:45

演題発表 申込み手続き

発表を希望される方は、「演題登録用紙」に必要事項を記入して、大会事務局までメールにてお送りください。演題登録用紙は、大会ウェブサイト(<http://www.26annual.iadp.info>)からダウンロードすることができます。後日、大会事務局より「研究発表要項」および「発表要旨テンプレート」をお送りします。「研究発表要項」は、大会ウェブサイトからご覧いただけます。なお、各発表は「**発表要旨受理の審査**」によって**受理された順に定員になり次第締切となります**。
お早めに申込ください。

発表までのスケジュール



注記 ・全ての発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。

- ・研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金名や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」として記入ください。
- ・企業・法人組織等からの補助や援助(金額は問いません)を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください(利益相反の公開義務)。なお、公的な研究助成金等(科研費等)は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。

1) 研究発表

日常の臨床を研究し、更なる研究に繋がしましょう！

IADPの研究発表

「心理療法は事例研究に始まり、事例研究に終わる。」心理療法に関する能力を高めていくには、事例研究が欠かせません。クライアントの心理療法プロセスはそのクライアントの事例研究となります。IADPでは、心理療法の臨床実践と研究を分けず、臨床を研究することを積極的に取り組んでいます。

良い事例報告はそのまま事例研究に通じていきます。今取り組んでいる臨床事例を研究したいと思っているけど、どう研究していいかわからないという方、まずはその事例の事例報告から始めてみませんか？事例研究で明らかになったことをより実証的に調査的に研究するリサーチも広く募集しています。

皆さんの日々の臨床にある面白い変化、面白い力動、効果的な技法・技術の発見などをIADPで発表し、積極的に議論しましょう！

国際力動的心理療法学会第26回年次大会「臨床研究発表」要領

研究形態

「事例報告」「事例研究」「リサーチ」

発表形式

「口頭発表」「ポスター発表」

以下の形式で発表要旨を作成してください。

1. 臨床研究発表分野について

1)「事例報告」

事例報告(Case Report)とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、あるいは、危機介入や治療過程における力動的な理解・分析にもとづいた介入(看護領域における看護面接、治療面接を含む)(以下、「力動的介入」とする)による事例の臨床検討報告を指す。報告の主な目的は、クライアントおよび患者の内的体験を、その事実資料に基づき可能な限り再構成することである。以下の構成でまとめられ、臨床蓄積事例として価値の認められるもの、あるいはその領域の今後の研究展開に対する促進的意義の認められるもの。事例報告の構造は以下のとおりである。

①問題(はじめに、序、問題の所在と背景)

事例性の同定とその特異性あるいは、類似性の確認および検討課題を特定化し、その背景、今日共有されている理論的理解や先行研究の知見もレビューできると良い。検討課題は、以下の要点を、心理療法および力動的介入過程の重要な変数とした事例全体の理解の追及と共に特定化すること。

i) 病理、心理力動、人格機能・構造、人格発達

ii) 家族、友人、集団、環境社会関係、およびセラピストとの関係
iii) 心理療法／力動的介入理論、治療過程、治療技法、セルフケア看護技法、教育対話手法

②目的

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

i) 何をどこまで検討しようとするのか
ii) それをどのように検討しようとするのか
iii) そのための理論や仮説はどのようなものか

③事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。

i) 事例性: 提示事例の選定理由、資料性を示す条件の確認
ii) 資料内容: 目的によって必要なもののみの構成提示
例) 主訴、臨床像、治療理論／治療仮説／治療計画、治療構成(構造、契約等)／治療技法、治療展開過程(臨床事実)、治療的成果(臨床的变化の事実)

④分析、考察

目的を軸に、資料の厳密な分析と考察を展開し、決して資料にフィードバックできない根拠のない考察に及ばないこと。

⑤結論と今後の課題／展望

結論は、事例資料の検討により明らかになったことと、残された問題の両側面を出来るだけ簡潔にまとめる。問題として、掲げたテーマについての研究展開の展望を書く。

2)「事例研究」

事例研究(Case Study)とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、看護手法、教育手法、あるいは危機介入や治療過程における力動的介入による事例を用いて、臨床的、学術的な研究蓄積に貢献するものを指す。事例研究の基本構造は、以下のとおりである。

①問題(はじめに、序、問題の所在と背景)

研究課題の現段階までの先行研究のレビューに基づくテーマの設定と、どこまで明らかにするかの課題の同定を行う。研究テーマは、大きく3つの領域に分かれる。

- i) 病理、心理力動、人格構造・機能、人格発達
- ii) 家族、集団、社会心理の構造とメカニズム
- iii) 心理療法、教育手法、看護手法あるいは力動的介入についての理論・過程・技法

②目的および研究意義

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

- i) 何をどこまで明らかにしようとするのか
- ii) それをどのように明らかにしようとするのか
- iii) そのための基盤理論や、新たな仮説構成はどのようなものなのか
- iv) 研究意義と展望はどういうものか

③方法・手順

研究目的を達成するための方法と手順を明示する。

④事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。事例資料内容は、事例報告とは異なり、目的によって必要なもののみ構成提示することが求められる。

⑤分析、考察

理論および仮説構成をふまえ、研究目的を軸に資料の厳密な分析と考察を展開すること。

⑥結論と今後の課題／展望

結論は、明らかになったことと残された問題の両側面をできるだけ簡潔にまとめ、それに基づいた研究の次のステップとさらなる展開の展望を整理する。

3)「リサーチ」

ここでの「リサーチ」とは、心理療法、力動的介入、精神分析的な主題に関する実証、調査研究を指す。追試、探索的研究、効果研究、質問紙研究を含め、研究蓄積に貢献するもの。

「リサーチ」の基本構造は、大きくは、上記2分野と重なるために、簡単に示す。

- ①問題 ②目的 ③方法・手順 ④理論/概念枠組みおよび作業仮説 ⑤結果 ⑥ 考察 ⑦結論と今後の課題

2. 発表形式

1)発表形式には、「口頭発表」と「ポスター発表」の2種があります。

2)口頭発表

大会2日目 10:45-12:15にご発表いただきます。

当日の配布資料はご自身で準備していただきます。回収資料とし、回収後の資料はご自身でお持ち帰りください。

パワーポイントをご使用いただけます。PCは会場にあるものをご使用いただけます。

3)ポスター発表

ポスターは、大会期間中に随時掲載されます。

大会2日目(12:15-13:45)に、ポスター前で質疑応答、ディスカッションを行います。時間は30分とし、12:30-13:00、13:00-13:30いずれかの時間を決め、大会事務局にお伝えください。

ポスターのサイズは横110センチ×縦220センチとし、発表者自身で準備し、当日ご自身で提示を行ってください。

3. 臨床研究発表の留意点

1)事例資料の守秘性

事例資料の入手法および守秘性に関する処置を明確にしてください。また、事例の実施された機関における研究発表規則(倫理審査委員会の認定等)と法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。

2)研究助成金等

研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金(研究助成番号)や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」として記入ください。

企業・法人組織等からの補助や援助(金額は問いません)を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください(利益相反の公開義務)。なお、公的な研究助成金等(科研費等)は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。

3)共同発表者

共同発表者がいる場合は、発表要旨をご提出される前に、内容の確認を行ってください。

4. 発表要旨の作成

- 1) 要旨は発表言語(日本語もしくは英語)で作成してください。日本語で作成した場合、発表タイトル、発表者、所属については英語でも記載してください。
- 2) 日本語の場合は 2000 字以内、英語の場合は 500 語以内で作成してください。
- 3) 要旨には、引用文献、画像、表、図、グラフや付録を載せないでください。
- 4) 前述の募集テーマを、キーワード選択の際の参考にしてください。
- 5) 要旨は、前述の3分野の研究構造にそって簡潔にまとめてください。「結論は、当日に示す」等の曖昧な表現は、避けてください。

5. 発表要旨の送付先

テンプレートに沿ってご準備いただいた要旨を下記の大会事務局のアドレスにメールで添付してお送りください。

お送りいただく際には、必ず添付書類にパスワードをかけて送信をお願い致します。

▶大会事務局アドレス: office26@26annual.iadp.info

6. 提出スケジュール

◆演題登録用紙提出締切: 2022 年 5 月 17 日(火)

◆発表要旨提出締切: 2022 年 5 月 24 日(火)

◆要旨最終期限: 2022 年 6 月 14 日(火)

7. 要旨の受理と発表

1) 大会査読委員会が事例要旨を精査し、1 ヶ月程度で発表者に結果を通知します。

2) 受理された事例要旨は、当日配布される抄録集に掲載されます。なお、受理された場合は、2022 年 6 月 14 日(火)まで修正が可能です。修正をされたい方は、期日までに大会事務局のアドレスに修正版をメールに添付してお送り下さい。

2) 研究サポート

あなたの研究を先に進めるサポートをします！

第26回年次大会では、臨床研究発表の時間に並行して研究初心者のための「研究サポート」を開催します。

「研究サポート」では、研究を始めたい臨床事例や面白いと思った事例の場面を元に、そこからどのような研究を始められるか、事例理解の整理をしながら、変数関係とテーマの特定化の手助けが得られます。この研究サポートを起点に、次年度以降の IADP 年次大会での事例報告・事例研究へとつなげていきましょう。

臨床経験年数は問いません。研究を始めたいと思うけれども、どのように始めていいかわからない研究初心者の方、「研究サポート」をご活用ください。

定員 2名（定員になり次第、締め切りとさせていただきます。）

時間 60分

申込方法 参加申込書に必要事項を記入の上、大会事務局まで送付してください。

申込受理の流れ

以下の様式に沿って2点資料を作成し、事前に提出してください（抄録には掲載しません。）

- i. 事例概要（定性データ・主訴・問題・臨床像・家族構成・来談経緯・事例経過・処方へのオリエンテーション・取り組みたい研究テーマを含む）を日本語で1000字以内で作成してください。
- ii. 発表事例について、発表者が面白いと思う場面・事例に特徴的な場面・事例の力動的特徴を表している場面について、面接や対話の逐語（最大10やりとり程度）を作成してください。

注：発表者は、事例の発表について、該当関係団体の倫理規定、法律に則って準備を進めてください。

不明な点がありましたら、大会実行委員会学術プログラム委員会にお問い合わせください。

3) 事例スーパーヴィジョン

事例に関与し、生きた臨床から学びましょう！

国内、海外のマスターセラピスト、第一線で活躍するセラピストによる事例スーパーヴィジョンを受けたい方を募集します。発表は日本語もしくは英語のいずれかとなります。英語での発表を歓迎いたします。発表要旨は英語で作成していただきますのでご注意ください。当日のご発表の際は通訳がつかますので、発表言語は日本語でも英語でも構いません。要旨作成に関してご心配な点がございましたら、大会事務局までご相談ください。

スーパーヴァイザー

- ◆牛島 定信先生（市ヶ谷ひろぎクリニック）：力動的精神医学、精神療法、パーソナリティ障害、うつ病など
- ◆ラルフ・モラ先生（個人開業／メリランド大学）：力動的心理療法、子ども・家族、PTSD など
- ◆セス・アロンソン先生（ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所トレーニング・ディレクター：アメリカ）：思春期・青年期・集団精神療法など
- ◆能 幸夫先生（PAS 心理教育研究所所長／湘南病院相談室室長）：力動的心理療法・精神病・集団精神療法・セルフケアなど
- ◆橋本 和典先生（国際医療福祉大学大学院准教授／PAS 心理教育研究所）：力動的心理療法・青年期・アイデンティティ・危機介入など

国際力動的心理療法学会 26 回大会「事例スーパーヴィジョン」発表要

以下の様式に沿って事例スーパーヴィジョン資料を作成してください。

1. 発表要旨の作成

- 要旨は発表言語（日本語もしくは英語）で作成してください。日本語で作成した場合、発表タイトル、発表者、所属については英語でも記載してください。
- 日本語の場合は 2000 字以内、英語の場合は 500 語以内で作成してください。
- 要旨には、引用文献、画像、表、図、グラフや付録を載せないでください。
- 事例要旨は、以下の様式でご提出ください。
①事例要旨の題名（20 語以内）、②著者名と所属、③発表の目的、④事例の診断あるいは心理アセスメント、⑤治療計画、⑥事例概要（定性データ・処方へのオリエンテーション・臨床像・家族構成・来談経緯・事例経過を含む）、⑦検討ポイントの呈示（「当日発表する」というような不明瞭な表現は避けてください。）、⑧キーワード 3 つまで。
- 下記の項目をキーワード選択の際の参考にしてください。
発達位相（幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期）、病態水準（神経症水準、人格障害水準、精神病水準）、性別（男性、女性）、診断、査定、技法、セッティング（外来、入院／病院、教育機関他）、力動的心理療法／個人心理療法／集団精神療法／コンバインドセラピー、トラウマ、PTSD、うつ、転移、抵抗、ワーキングスルー、精神看護、セルフケア、リエゾン精神看護

2. 送付先

お送りしたテンプレートに上記様式に沿ってご記入頂き、下記の大会事務局のアドレスまでメールで添付してお送りください。添付資料には必ずパスワードを掛けていただきますよう、お願い致します。

▶大会事務局アドレス：office26@26annual.iadp.info

3. 提出期限：2022 年 5 月 24 日（火）

- 要旨をご提出される前に、共同発表者と内容の確認を行ってください。
- 全ての事例検討発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則って行われたという条件の下で受理します。

<要旨の受理と発表>

- 事例選定審査委員会が事例要旨を精査し、2 週間程度で発表者に結果を通知します。
- 受理された事例要旨は、当日配布される抄録集に掲載されます。なお、**受理された場合は、2022 年 6 月 14 日（火）まで修正が可能**です。修正をされたい方は、期日までに事務局のアドレスに修正版をメールに添付してお送り下さい。

第26回年次大会 大会組織

| | | |
|-------------------|---------------------|---|
| 大会会長 | | 永山智之（兵庫教育大学准教授／PAS 心理教育研究所客員研究員） |
| 大会組織委員会 | 委員長 | 永山智之（兵庫教育大学准教授／PAS 心理教育研究所客員研究員） |
| | 委員 | Cristina Martinez-Taboada Kutz (Professor of University of Basque Country) 鹿島晴雄(国際医療福祉大学大学院教授) 李樺(中山大学心理学部・大学院学部長) Robi Friedman (President of the Group Analytic Society (International)) 小谷英文(PAS 心理教育研究所理事長／国際基督教大学名誉教授) 能幸夫(PAS 心理教育研究所所長／湘南病院相談室室長) 橋本和典(国際医療福祉大学大学院准教授／PAS 心理教育研究所理事) 高田毅(健康科学大学講師) 岡崎良仁(種智院大学講師) 中藤信哉(京都ノートルダム女子大学講師) |
| 学術プログラム委員会 | 委員長 | 中村有希(PAS 心理教育研究所臨床ディレクター) |
| | 委員 | 石川与志也(ルーテル学院大学准教授) 髭香代子(PAS 心理教育研究所) 花井俊紀(PAS 心理教育研究所／吉祥寺心理教育研究所) |
| 大会事務局 | 事務局長・会計 | 長島祐美子(医療法人社団ときわ会 常願寺病院) |
| | 受付 | 大野詩織(兵庫県スクールカウンセラー／一般社団法人 パーマネント・クリエイティブ・マインド) |
| | 広報・抄録 渉外 | 山本智代(伊丹公共職業安定所／兵庫県キャンパスカウンセラー) 森田真帆(一般社団法人 ころろ相談研修センター) 谷世梨佳(むらかわクリニック・丸亀街づくり研究所) |
| | 会場 | 山根悠(一般社団法人 パーマネント・クリエイティブ・マインド) |
| | 助成金 | 永山智之（兵庫教育大学准教授／PAS 心理教育研究所客員研究員） 長島祐美子(医療法人社団ときわ会 常願寺病院) |
| | 通 訊 | 嶋岡弘祐(兵庫県公立学校スクールカウンセラー／加古川中央市民病院) 長島祐美子(医療法人社団ときわ会 常願寺病院) |

●大会事務局:兵庫教育大学 永山研究室 〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-5-7 神戸情報文化ビル 3階

●メールアドレス: office26@26annual.iadp.info ●大会ウェブサイト: <https://www.26annual.iadp.info>

会場・アクセス

兵庫教育大学 ハーバーランドキャンパス

(兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-5-7 神戸情報文化ビル 3階)

- JR 神戸駅 徒歩約 8分
- 神戸市営地下鉄ハーバーランド駅 徒歩約 8分
- 阪急・阪神高速神戸駅 徒歩約 13分

駐車場は下記サイトをご参照ください。

神戸ハーバーランド駐車場情報 <https://www.harborland.co.jp/parking>

